



SUPER HEAD 取り扱い説明書

F-Type Super Head

Super Head Kit

01-03-1122	3RING	3.1psモンキー、ゴリラ (88レーシング) 85cc
01-03-1222	3RING	3.1psモンキー、ゴリラ (88レーシング) 88cc
01-03-1252	3RING	2.6psモンキー、ゴリラ (88レーシング) 88cc
01-03-1312	3RING	モンキー、ゴリラ (106レーシングカム) 102cc
01-03-1412	3RING	モンキー、ゴリラ (106レーシングカム) 106cc
01-03-1512	LRING	GAG (88レーシング) 85.5cc
01-03-1612	LRING	GAG (88レーシング) 89cc
01-03-1712	LRING	GAG (106レーシング)102cc
01-03-1812	LRING	GAG (106レーシング) 106cc
01-03-2122	3RING	3.1psモンキー、ゴリラ (88ツーリング) 85cc
01-03-2222	3RING	3.1psモンキー、ゴリラ (88ツーリング) 88cc
01-03-2252	3RING	2.6psモンキー、ゴリラ (88ツーリング) 88cc
01-03-2312	3RING	モンキー、ゴリラ (106ツーリング) 102cc
01-03-2412	3RING	モンキー、ゴリラ (106ツーリング) 106cc
01-03-2512	LRING	GAG (88ツーリング) 85.5CC
01-03-2612	LRING	GAG (88ツーリング) 89CC
01-03-2712	LRING	GAG (106ツーリング) 102CC
01-03-2812	LRING	GAG (106ツーリング) 106CC

Super Head Bore up Kit

01-05-1122	3RING	3.1PSモンキー、ゴリラ (88R/カム) 85CC
01-05-1222	3RING	3.1PSモンキー、ゴリラ (88R/カム) 88CC
01-05-1252	3RING	2.6PSモンキー、ゴリラ (88R/カム) 88CC
01-05-2122	3RING	3.1PSモンキー、ゴリラ (88T/カム) 85CC
01-05-2222	3RING	3.1PSモンキー、ゴリラ (88T/カム) 88CC
01-05-2252	3RING	2.6PSモンキー、ゴリラ (88T/カム) 88CC
01-05-1512	LRING	GAG (88レーシングカム)85.5CC/スチール
01-05-1612	LRING	GAG (88レーシングカム)89CC/スチール
01-05-2512	LRING	GAG (88ツーリングカム) 85.5CC/スチール
01-05-2612	LRING	GAG (88ツーリングカム) 89CC/スチール

正しく安全にご使用頂くために

この度はタケガワ製品をお買い上げ頂きまして有難うございます。ご使用になられる前に必ずこの説明書をよくお読み頂いて内容を把握下さいませお願い致します。

取り付け前には必ず製品内容をお確かめ下さい。万一お気付の点がございましたらお買い求め頂いた販売店にご相談下さい。

当製品を組み付けた車両を一般道路で運転するには自動二輪小型限定以上の免許を取得されている方に限られます。又、市町村役場へ原付一種から原付二種への変更届を提出し、任意保険及び強制賠償保険は、排気量増大の申請手続きを行って下さい。

作業を行う際は必ず各車種専用のホンダサービスマニュアルを参照し確実に行って下さい。又、この説明書やサービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った人を対象としていますので技能や知識を持っていない人が作業を行った場合、正しく組み付け出来ない場合があります。

クラッチはスペシャルクラッチ、又は乾式クラッチをご使用下さい。ノーマルクラッチや強化クラッチでは、クラッチ容量が不足し滑りが生じます。

当製品を単独で使用した場合、本来の性能が発揮出来ません。必ずエンジンに見合ったカムシャフト、キャブレター、マフラーに交換して下さい。

排気量を増大した場合、必ず強化オイルポンプ、強化カムチェーンに交換して下さい。

スパークプラグは、6V車(NGK)C8HSA / (DENSO)U24FS-U、12V車(NGK)CR8HSA / (DENSO)U24FSR-Uを基準とし、プラグの焼け具合により熱価を決定して下さい。

燃料は必ず無鉛のハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。

エンジン回転計を取り付け必ず指示されたエンジン回転数を守ってご使用下さい。

記載内容や仕様などは製品改良のため予告無く変更する場合がありますので予めご了承下さい。

この説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

出力に応じたスプロケットに変更して下さい。

タコメーターユニットはEタイプヘッド専用部品をご使用下さい。Eタイプヘッド以前のユニットは取り付け出来ませんのでご注意下さい。

⚠ 注意 下記内容を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・作業は必ずエンジン冷間時(35以下)に行ってください。エンジンやマフラーが冷えていない状態で作業を行った場合火傷の原因となります。
- ・作業を行う際は必ずその作業に適した工具を用いてボルト、ナット類は必ずトルクレンチを使用して指定トルクで確実に締め付けて下さい。
- ・キット内部品及び指示された部品以外の使用や加工等は一切行わないで下さい。部品を破損させる可能性があります。
- ・走行前には必ず各部を点検し、ボルト等の緩みや異音の有無を確認して下さい。又、走行中異常が発生したと思われる場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ異常箇所の点検を行って下さい。

⚠ 警告 下記内容を無視した取扱をすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ・エンジンを始動する場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、換気の良い場所で作業を行って下さい。

組み付け前に

ノ・マルのカムチェンでは切れてしまう可能性があります。ノ・マルのオイルポンプではエンジンが潤滑不良を起こす可能性がありますので強化カムチェンやス・パ・オイルポンプの使用をおすすめします。

ノ・マルキャブやノ・マルマフラでは調子が出ないので当社製ビックキャブキットや高性能マフラの装着をおすすめします。

エンジンの出力によってはクラッチがすべる場合がありますので、当社製強化クラッチの装着をおすすめします。

ボアアップすると50ccのままのギヤ比ではロ・ギヤ・ドすぎて各パーツの摩耗が早くなりますのでエンジンの出力にあったスプロケットの変更をして下さい。

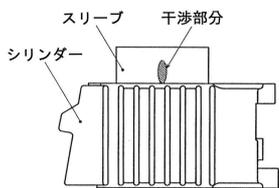
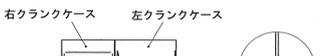
ボアアップを装着するエンジンからシリンダヘッド、シリンダ、ピストンを取り外す。

シリンダヘッド締め付けナット、ワッシャー、ボルト、ノックピンなどの部品は点検をし異常がなければ再使用しますのでなくさない様にして下さい。

取り外したヘッドのR・サイドカバーを取り外しロッカ・ア・ムシャフトを取り外す。

これも点検し異常がなければ再使用します。クランクケースのシリンダ・ベ・ス面にベ・スガスケットのかすが残っている場合、スクレイパ・やカッターでガスケットかすを取り除きシリンダ・ベ・ス面をきれいしておく。

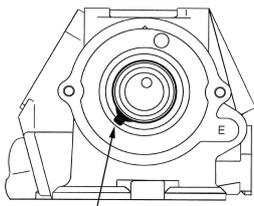
クランクケースのスリ・ブホ・ルに段がある場合、スリ・ブを押ししてしまう可能性があるので削る。



カムシャフトの組み付け

カムシャフトのベアリングとカム山にエンジンオイルを塗布する。

シリンダヘッドのカム穴部にあるカム山の逃げ部(矢印部分)にインテークのカム山が通る様にシリンダヘッド内に入れる。



カムシャフトの奥のベアリングを先に入れる感じでカムシャフトをまっすぐにして手で押し込みます。(ヘッド自体に多少の個体差があるので少しかた目の物もありますがまっすぐにすれば手で入りますのでハンマ等でたたかない様にして下さい) たたいて壊してしまってもクレームにはなりません。

ロッカ・ア・ム組み付け

ロッカ・ア・ムのカム山当り面とロッカ・ア・ムシャフト穴にオイルを塗布する。ス・パ・ヘッド内にロッカ・ア・ムを入れる。先にス・パ・ヘッドから外しておいたロッカ・ア・ムシャフトにオイルを塗布しロッカ・ア・ムに通して奥まで押し込みシリンダヘッドカバーを取り付ける。

ストロークアップクランクの組み付け

ヘッドキット・ボアアップキットの場合は、この項目は関係ありません。

クラッチまわりの部品、フライホイールまわりの部品を取り外す。

クランクケースの締め付けボルトを取り外し、クランクケースを分割する。ノ・マルのクランクを取り外しストロークアップクランクに組み換える。

ガスケットを新品に交換してクランクケースを合わせ、クランクケースを締め付けボルトにて規定トルクで締め付ける。締め付け後クランクシャフトやミッションのシャフト類がスムーズに回ることを確認する。

先に外したクラッチやフライホイールまわりの部品を逆の手順で組み付ける。

ピストン組み付け

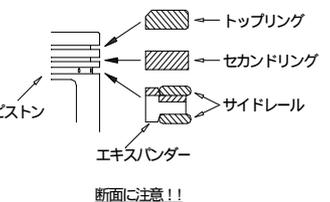
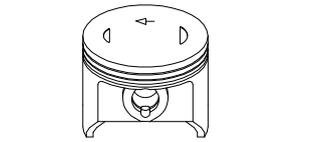
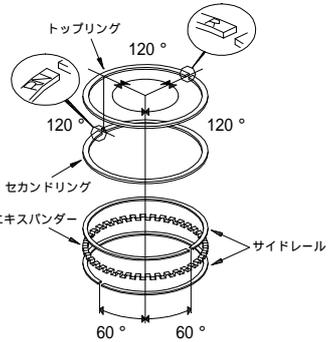
クランクケースのスリ・ブホ・ル部カムチェンホ・ル部にきれいなウエスを詰め込む。

ピストンのどちらか片方にピストンピンサクリップを取り付ける。

ピストンリングみぞにオイルを塗布し、図を参考にしてピストンリングを取り付け合い口を合わせる。

ピストンのピン穴とコンロッドのピン穴とピストンピンにオイルを塗布しピストンをコンロッドに取り付ける。

ピストンのもう片側にピストンピンサクリップを取り付ける。つめていたウエスを外す。



シリンダ - 組み付け

シリンダ・ベ・ス面を脱脂し、ノックピン2個とシリンダ・ベ・スガスケットラバ・バックンを取り付ける。

シリンダ内にオイルを塗布しピストンリングの合い口がずれない様にシリンダを取り付ける。ガイドロ・ラ・とシリンダ・サイドボルトを仮り止める。

シリンダ - ヘッド取り付け

シリンダ・面とヘッド面を脱脂しノックピン2個を取り付ける。

シリンダ・ヘッドガスケットにシ・ルバックンを塗りシリンダ・に取り付けラバ・バックン2個を取り付ける。

カムチェンを通しながらシリンダ・ヘッドを取り付けるカムチェンは落ちないようにしておく。ヘッドワッシャー・とヘッドナットを取り付け規定トルクで締め付ける。

シリンダ・ヘッドサイドボルトと先に仮付けていたガイドロ・ラ・ボルトとシリンダ・サイドボルトを締め付ける。

カムスプロケット取り付け

カムチェンテンション・の張りを緩める。カムシャフトを圧縮上死点にする。

フライホイールのTマ・クがクランクケースの切りかぎに合っている状態でカムスプロケットの切りかぎに合っているか確認する。

テンション・を組み付ける。

タペット調整

圧縮上死点に合わせてタペットすき間をIN.EX共0.08に合わせる。

調整後フライホイールを何回か正回転に回し再度圧縮上死点に合わせてタペットすき間に変化がないか確認する

調整後タペットすき間に変化があればタペットナットが規定トルクで締まっているか確認しタペットキャップとシリンダ・ヘッドカバーを取り付ける。

キャブレタ・マフラ・等を取り付ける

フライホイールを回転方向に回し、Fマ・クが切りかぎを過ぎるあたりからポイントが開く様に調整し、ポイントが一番開くあたりでフライホイールを止めてその時のポイントすき間が0.3~0.4の範囲にあればある程度はあっています。

あとはタイミングライトやポイントテスタを使用しアイドル時にFマ・クが切りかぎにくる様にポイントすき間を調整する。調整後再度ポイントが一番開く所でフライホイールを止めてポイントすき間が0.3~0.4の範囲であればOKです。

この時のポイントすき間が0.3~0.4以外の場合ポイント交換になります。又ポイント面が荒れていたり、欠けたりしている場合も新品に交換して下さい。

バルブタイミング調整

レーシングカムシャフトの場合は必ず全円分度器とダイヤルゲージにて調整して下さい。

106 RACING
IN OPEN
上死点前 25°
IN CLOSE
下死点后 55°
EX OPEN
下死点前 55°
EX CLOSE
上死点后 25°

88 RACING
IN OPEN
上死点前 20°
IN CLOSE
下死点后 48°
EX OPEN
下死点前 48°
EX CLOSE
上死点后 20°

----- 組み付け後の注意 -----

エンジンを始動する前にオイル量を点検し、イグニッションキ・OFF、ガソリンコックOFFの状態です・パ・クプラグを外し、しばらくキックをしエンジン各部にオイルを充分に行きわたらせた後、始動して下さい。始動後もいきなり高回転まで回さずなるべく低い回転で維持する様にして下さい。エンジンを組み付けた時、規定トルクで締め付けているボルトやナットもエンジンが温まり熱膨張を繰り返すので、定期的にくらべてくる場合がありますので、定期的にくらべてボルト・ナット類をまじ締めして下さい。

6V車

6V車はカムチェンテンション・がマニュアル式の為に、定期的にチェックしないとカムチェンが弛み、バルブタイミングや点火時期が狂います。弛んだままでバルブタイミングや点火時期を調整してもちゃんとした調整ができないのでエンジン不調やエンジン破損の原因にもなります。バルブタイミング・点火時期、タペット調整はカムチェンが弛んでいないか点検後して下さい。

カムチェンテンション・の調整

排気上死点になる様にフライホイールを合わせるが、カムスプロケットを固定しフライホイールを回転方向とその逆方向に少しずつ動かす。そのときにカムスプロケットが動いていないのにフライホイールにガタがある場合は、そのガタの分カムチェンが弛んでいる事になります。この弛みがなくなる様にテンション・を張りますが、張りすぎても良くないで弛みがなくなるあたりでテンション・をロックします。

ポイント調整

点火時期はフライホイールを取り外して、取り付けただけで狂ってしまう場合がありますので、フライホイールを取り外したり、カムチェン調整後は点火時期が狂っていないか点検して下さい。

SPECIAL PARTS TAKEGAWA

〒584-0069

大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721-25-1357

FAX 0721-24-5059

